

1986年 7月25日

『毎月25日発行』

第91号 6 頁 300円

定期購読料（1部22回）
手渡し 3000円／開封 3500円／密封 4000円

赤旗

共產主義者同盟中央機關紙

發行 赤路社 二面 諸闘争の報告記事など
三面 総評大会論評など
四・五面 現代世界と帝国主義(4)
六面 狹山・精神衛生法関係記事
東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号

東京都下谷郵便局私書箱180号
(関西) 大阪市港郵便局私書箱40号

戦後政治の終焉告げたダブル選

革命的左翼の指導力が問われる時代へ

白鳳压勝の 中身

血民圧勝の
中身

ダブル選挙の転未

自民党の代名詞」とそれでいた社会民主党の名が、労働運動の中だけでなく、全国的規模で規定力をもたなくなってきたことの証左である。彼らはやはり都市部における自民党得票率の減少を吸収する力すら失なった。これは、石橋体制の「三・二・一社会党」路線が、野党の路線として何の国民的支持を得るひとつのできなんものであることを見かにしている。

民社党の凋落も、同盟や企業ぐるみの選挙活動による利害説教をして選挙戦をたたかつた。だがそ

したは、自民党政治に対する不満なところを明らかにした。それは社会党の没落と規定されたものである。それは立憲同盟が「福祉」問題でこれまでの政策要求を中止し、「善意のボランティア」運動に政治闘争を置きかえたように、もはやよりブルジョワ政党に純化するのを抜きには凋落に歯止めをかけることができない。共産党は「唯一の議会内反対派」としての主張を前面におじた

日米帝の戦争準備

この「選舉騒ぎ」の渦中に、
「パック八六」の演習が終った。
この中で海上自衛隊は「カール
ビンソン」「レイインジャー」各米
空母の「員として共同演習を展開
し、「強大な軍事・政治力をもつ」
仮装敵国が占領した国を奪還する
空母の「員として共同演習を展開
し、「強大な軍事・政治力をもつ」
大会へ30万人が参加
「朝鮮有事」にそなえて、米海
軍の戦略構想を基礎に計画され
ての実現可能性を試験する今回のリ
ムパックは、「(戦争となれば)
ソ連は中部ヨーロッパに攻勢を集
中する」(トキキンス米海軍最高
指揮官)のに抗し、海上自衛隊が
米海軍と一緒に東にひきつけ、「積極果敢」
「攻撃的」(同)な攻勢作戦の一
翼をなすとしたものである。
それは、「シーレーン」防衛を
行なう、あるいはラップ島を保
持する、などと云ふことを想
像するのである。

この帝国主義の戦争の危機によって、「日本は國家」、「日本が、國を守る」という言葉が、世界諸国での「権益確保」を目的として多言されている日本帝国の内閣（ワシントン）との政治委員会で、文字通り「核安保」として、臨戦体制を実践的に整化し、臨戦体制を実践的に整化している日本帝国主義の血塗られた性質があつて、ひどく暴露されるのである。

進む戦争遂行 国家づくり

第三回 同盟と強めていた本邦の試みに端的である。もちろん一戦後政治の総決算能の弊病であり、また戦後日本家に独自の強力な機能を有してしまった官僚制度に対する熟視府・首脳会の「直接指導する」(中曾根)「ツップダウソ方式」の強力な採用の試みに端的である。

攻撃は、財政・行政・教育の三機関改革と軍備拡張を柱にすえた、事経済・社会の総領域に及ぶものであり、どうわけて天皇制と「國家主義的イデオロギー」統合不可欠の条件とする。

日本赤軍のハイジャックやミグ」で、大韓航空機事件でのソ連ミサイル発射や大糸雪崩発生時の治安など、既存の法律で間に合わない事件への対処のすべて——となつてゐる。こうした支配階級と中層幹部の攻撃への「議院内閣制度」や「政党政治」の諸原則からの批判はより意味をなさず、むしろ戦争にむけた全民族一致・動員体制の「ケモノ二」をめぐって、どちらがより反革命の側に立つのをめぐる「やりとり」に必ずしも結素するのだ。

安保会議の 正 体

日本赤軍のハイジャックやミグ一五北海道着陸事件に加えて、大韓航空機事件でのソ連ミサイル発射や大災害発生時の治安など、既存の法律で間に合わない事件への対処のすべて——となつていてる。こうした支配階級と中農根の攻撃への「議院内閣制度」やら「政治」との諸原則からの批判は、むしろ戦争にむけた拳国一致・動員体制のへきならない意味をなさず、どちらがより反革命の側に立つのをめぐる「やりとり」に必ずしも結果するのだ。ブルジョア民主主義の指標をめぐらしくひろがられる「選挙」やら「政争」は、そうした茶番劇二重演じて。

革命的左翼は、こうした敵の攻勢を許してはいることを、その根拠にまでさかのぼって痛切に自己批判し、自らを改造しなければならない。

すでに既成野党が国政における対抗能力を喪失し、労働者階級民の政治分岐のハゲモード支配階級との政党に掌握されようとしている。そして、これにとつてかわるプロレタリアート人民の政治方針が実質的に指し示されていない。その中で、没落する小ブルジョワ各層の政治意志や各層の危

3月30日韓国・光州の街頭、改憲推進委結成大会へ30万人が参加
「攻撃的」（同）な攻勢作戦の一翼をなすといふ、米帝の世界戦略にそつたものである。
それは、「シーレーン」防衛をめぐつて、あるいはマラッカ海峡

革命的左翼の任務

わが革命的左翼は、こうした敵の攻勢を許してはいることを、その根柢にまでさかのぼって痛切に自己批判し、自らを改造しなければならない。

すでに既成野党が国政における対抗能力を喪失し、労働者階級人民の政治分歧のハゲモード支配階級との政党に掌握されようとしている。そして、これにとつてかわるプロレタリアート人民の政治方針が美諱的に指し示されていない。その中で、没落する小ブルジョワ各層の政治意志や各層の危

義、農本主義を掲げた民間団体が台頭してきました。だが、こうした逆流に抗したことには、山谷において日雇谷労争団が、天皇主義石炭会金町一家解体との大衆戦闘的労働運動の右翼、パートとのたかかいの最前線

要起によつて領導していく戦闘指揮部＝单一のプロレタリア革命党を建設していくこと、「自らの改造と飛躍をも踏して手力をあげなければならぬ。」
巨万のプロレタリアートの革命的政治への決起を彼岸に追いやる「左」右の反対派政治は、一掃されなければならないのだ。
たたかう労働者、学生諸君！
共産主義者同盟と共に日本革命の大道を突き進もう！

現代世界と帝国主義

四章 現代帝国主義と日和見主義

ブルジョア民族主義からの大國批判

この日和見主義は、一九四七年九月、ボーランドで開かれたコミンツォルム第一次会議におけるア・シダーハークの「国際情勢について」の報告の中で、次のように主張として現れた。

「フランス、イタリア、イギリス、その他の諸国兄弟的共産党は、特別の任務が課せられてゐる。それならば、自国の民族独立と主権の擁護の権を、自己に握らねばならない」（注1）

また、同じ見地が、スターインの直接指導の下につくられた日共五一周年綱領に

「民族主義は、民族問題に

おける一つの歴史的傾向を知つてゐる。

第一の傾向は、民族生活および民族運動の覺醒であり、ある民族の民族的抑圧に対する闘争であり、民族国家の創造である。第二の傾向は、民族間のあらゆる交渉であり、民族の繁榮や政治破壊であり、資本、経済生活一般、政治

科学、等々の国際的統一の創造である。

（本号）

一、戦後国家の基本性格

三、帝国主義の没落

四、現代帝国主義と日和見主義

第一次大戦後における帝国主義の延命形態と関連して、マルクス主義の理論家線に新装した日和見主義が政権に、プロレタリアートを感してきた。

その第一が、大戦直後の時期にコミニズムの主張となり、中国共産党を筆頭に多くの共産党の中に今日まで生き続ってきた、ブルジョア民族主義の立場からする帝国主義批判である。この傾

フォームの主張となり、中国共産党を筆

頭に多くの共産党の中に今日まで生き続

てきた、ブルジョア民族主義の立場か

らする帝国主義超大国（米帝）批判であ

る。第2回は、五〇年代半ば以降、帝国主

義が相対的安定期に入り、日欧帝国主義

が復活・台頭した時期に、日・欧の地域

の共産主義運動を毒した、経済主義の立

場からする帝国主義批判である。この傾

向は、超大国・米帝の流帝国主義対

する一定の支配・統制という現代帝国主

義の最も重要な特徴の一つについて、こ

れから自身を詮説する誤を犯し

る。第3回は、五〇年代半ば以降、帝国主

義が相対的安定期に入り、日欧帝国主義

が復活・台頭した時期に、日・欧の地域

の共産主義運動を毒した、経済主義の立

場からする帝国主義批判である。この傾

向は、超大国・米帝の流帝国主義対

する一定の支配・統制という現代帝国主

義の最も重要な特徴の一つについて、こ

れから自身を詮説する誤を犯し

る。第4回は、七〇年代初頭以降、帝

国主義の相対的安定が崩れはじめた事

じめた。この類の日和見主義を代表する

ものが構造改革派である。第三回は、同じく

が復活・台頭した時期に、日・欧の地域

の民族運動として展開した場合、その傾向は、米帝

の民族主義的帝国主義超大国批判（從属）

と日本共産党的な政治路線の中にあること

がわかる。第四回は、七〇年代初頭以降、帝

国主義の相対的安定が崩れはじめた事

